

# 日本における大学版「知の理論」の可能性

企画者・司会者・話題提供者：松下佳代（京都大学高等教育研究開発推進センター）

話題提供者：田原 誠（岡山大学大学院環境生命科学研究科）

話題提供者：渡邊雅子（名古屋大学教育発達科学研究科）

話題提供者：坂本尚志（京都薬科大学一般教育分野）

日本の学校に普及しつつある IB(国際バカロレア)プログラムの中でも、「知の理論 (Theory of Knowledge: TOK)」は IB の特徴を最もよく表わすものとして注目されている。だが、日本の教育制度の下で考えれば、「知の理論」は、さまざまな学問分野を広く学びながらその共通性と差異に意識が向けられる大学の教養教育においてこそ、大きな意義をもつのではないだろうか。

本セッションでは、「知の理論」を大学教育での実践、国際比較、バカロレア哲学試験との違い、分野横断性などの点から多角的に論じ、日本における大学版「知の理論」の可能性を探る。

## 「教養教育科目としての『知の理論入門』 (岡山大学の取り組み)」

田原 誠

IB 教育を受けていない大学生を念頭に作成した TOK 思考法のワークブック (『知の理論をひもとく』Inugai-Dixon et al., 2017) を使用して、「知の理論入門」を開講した。ワークブックの実践例を演習しつつ TOK 思考法を説明した後、ワークブックで例示した素材について、「主張」を抽出して TOK 流に分析し、最後に「根源的な問い」を導き出す実践にグループで取り組んでもらった。授業アンケートの結果などから、「知の理論」は、ロジカル・シンキングや哲学とも違う思考法や分析方法を提供でき、教養教育科目として価値が高いと判断した。

## 「2 つのバカロレア比較から日本版大学の 知の理論を提案する」

渡邊雅子

「フランス人を作る」ためのバカロレアと「グローバル化に対応できる人材育成」のための国際バカロレアの比較を行いながら、「日本型国際バカロレア」に位置づけた大学版知の理論の目的とその導入方法を提案したい。「知の理論」は西欧の教養である事に留意しつつ、大学ではこれに東ア

ジアの伝統を組み入れることで、知の在り方の相対化と使い分け、新たな組み合わせができるようになる事を目指す。ポスト近代時代の知の形と共通教養・コミュニケーションツールとしての知の可能性を探りたい。

## 「『知の理論』はどのような知を扱うのか— バカロレア哲学試験との比較で考える—」

坂本尚志

「知の理論」はいかなる知を対象とし、それをどのような方法で扱うことを学ばせるものなのだろうか？ 本報告はこの問いを、フランスの高校最終学年で行われる哲学教育と、その大きな目的であるバカロレア哲学試験との比較によって考察することを目的とする。両者はともにある形式の知を扱うものであり、その学習成果はエッセイやディセルタシオン (哲学小論文) によって表現され、評価される。両者の間の共通点と相違点について、学習される知の内容と表現の方法に焦点を当てて比較検討していくことによって、「知の理論」の特徴がより明確に理解されるであろう。

## 「分野横断性としての汎用性—大学版『知 の理論』への期待—」

松下佳代

汎用性は、①分野固有性を捨象した汎用性 (例: シンキングツールなど)、②分野固有性に根ざした汎用性 (例: sourcing というスキル)、③分野横断性としての汎用性に分類することができる。他者と協働しながら、現実世界の状況や問題を分析・解決しようとするときに必要になるのは、問い・言語・方法などの分野による違いを認識した上で、状況や問題にあわせて参照する分野を選んだり、組み合わせたりすることを可能にする「分野横断性としての汎用性」ではないだろうか。「知の理論」はそのためのツールになりうる。日本学術会議の分野別参照基準などもリソースとしながら、大学教育版の構築について考えてみたい。